

第 70 回沖縄県中学校野球選手権大会

監督会資料

競技部

- 1 競技に関すること
- 2 用具・装具規定及び運用規定
- 3 マナーチェック実施要項

第70回 沖縄県中学校野球選手権大会

＜競技に関すること＞

1 球場、練習会場について

		球場長		練習会場		
①	かりゆし ホテルズ ボールパーク 宜野座 《球場長》 新垣望 ※潮平中	開 場	7 : 3 0	村営 グラウンド	開 場	7 : 3 0
		ブルペン	あり		スパイク	トラック内は使用禁止
		備 考			打撃練習	特に制限なし ※安全面に配慮をお願いします
					ブルペン	なし
					備 考	
駐車場 注意事項	・他競技（他団体）の使用がある時は確保できない場合もある。					
②	金武 ベースボール スタジアム 《球場長》 平安山英樹 ※金武中	開 場	7 : 3 0	サブ グラウンド ※隣接	開 場	7 : 3 0
		ブルペン	あり		スパイク	可能
		備 考			打撃練習	特に制限なし ※安全面に配慮をお願いします
					ブルペン	投球練習場あり
					備 考	
駐車場 注意事項	・身障者駐車場や公園内の路肩は駐車禁止です。 ※チーム関係者および保護者会へ周知徹底願います。					
③	ONNA赤間 ボールパーク 《球場長》 山内久司 ※読谷中	開 場	8 : 0 0	サブ グラウンド	開 場	8 : 0 0
		ブルペン	あり		スパイク	可能
		備 考			打撃練習	1対1のペッパーまで
					ブルペン	なし
					備 考	
駐車場 注意事項	・歩道への乗り上げ禁止です。 ・公園入り口（駐車場）は、7時開場です。					
④	かいぎん スタジアム 国頭 《球場長》 上里喜史 ※羽地中	開 場	7 : 3 0	ふれあい広場 (サブG) ※隣接	開 場	7 : 3 0
		ブルペン	あり		スパイク	可※打撃練習時は不可
		備 考			打撃練習	特に制限なし ※安全面に配慮をお願いします
					ブルペン	投球練習場あり
					備 考	
駐車場 注意事項						

2 球場内でのアップ

- (1) 第1試合の球場入りは、試合開始90分前より可とする。遅くともオーダー交換時までに行うこと。
- (2) 球場内でのアップは、試合用ユニフォームとする。
- (3) 芝生保護のため、球場内芝生エリアはスパイクを履いての練習を禁止する。
- (4) 球場内での打撃練習はバントまたは1対1のペッパーまでとする。
- (5) 外野ノックは土の部分から行うこと。
- (6) 第1試合のチームの球場内での練習に登録メンバー以外の部員を入れることができる。
但し、同一ユニフォーム（さらにサイドノック時はヘルメット）を着用し、試合開始45分前（オーダー交換時）には球場内から引き上げること。
- (7) 投球練習の際の捕手（控えの捕手も同様）は、必ず捕手用ヘルメット、スロートガード付きマスク、プロテクター、レガース、ファウルカップを着用すること。
- (8) 球場内練習では、競技で使用する以外の道具を使用することを禁止とする。
例・・・シャトル、プラスチックボール、サンドボール、ラダー等

3 練習会場でのアップ

- (1) 練習会場の使用は、会場到着後本部席（球場長）に確認をとって練習開始すること。その際、設備面・安全面を考慮し、大会本部が使用についての制限を設ける場合がある。
- (2) バッティング練習が可能な練習会場では、安全面に注意して行うこと。
- (3) 練習会場では、可能な限り競技で使用する道具のみを使用すること。
- (4) 第2試合目以降のチームは球場内（フィールド内）のブルペンを使用することはできない。
※ ブルペンがフィールド外にある場合は使用を認める場合もある。

4 オーダーの記入・提出・交換

- (1) 記入
 - ①オーダー用紙は全てフルネームで記入すること。※控え選手もフルネームで記入
 - ②オーダー用紙のポジションの記入は数字で記入すること。
- (2) 提出
 - ①オーダー用紙の提出は、第1試合はオーダー交換の10分前まで、第2試合以降は前試合の3回終了までに提出すること。
 - ②オーダー用紙は5部提出すること。
- (3) 交換
 - ①第1試合目のオーダーの交換は、試合開始時刻の45分前とする。
 - ②第2試合以降のオーダー交換は、前試合の4回終了時に行うこととする。

5 シートノック

- (1) シートノックは、試合開始30分前に後攻側から始める。通告時より5分以内とする
※ 決勝戦は試合開始35分前、7分以内。
- (2) 天候等事情により省略、短縮、またはサイドノックに変更することもある。
※ サイドノックでは、芝生保護のため球場内芝生エリアはスパイクを履いての練習を禁止する。

- (3) 相手チームは、完全にベンチ内で待機すること。
- (4) シートノック時、マウンドでの投球練習は認めない。※ブルペンでの投球は可。
- (5) シートノックの捕手は登録選手が行うこと。補助員の捕手は不可。
- (6) シートノックの補助員は全員ヘルメットを着用させること。
- (7) シートノック時の補助員を、登録外生徒（5名以内）で行ってもよい。
 - ※ボールの受け渡しに限る。
 - ※ユニフォーム、ヘルメットを着用すること。
- (8) 先攻チームは後攻チームのシートノック終了1分前のアナウンスでベンチ前に整列しノックに備える。

6 用具・装具規定および点検について

- (1) 沖縄県中学校体育連盟軟式野球専門部「用具・装具規定及び運用規定」を遵守すること。
- (2) 各チームとも上記の規定を熟読し、事前に用具点検を確実に行うこと。
- (3) 用具点検は、試合前シートノック時にベンチ待機チームに対して行う。
- (4) ヘルメットは、規定に則ったものを最低限8個以上準備すること。
- (5) 点検の際には、ヘルメット、バット、グラブなど用具をベンチ前に並べ、点検に協力すること。

7 試合

- (1) 試合中のアップ（キャッチボール）は2組（4名以内）とする。
 - ※攻守交替時に限り、控え選手がファウルグラウンドでの外野方向へランニングすることは認める。
 - ※キャッチボールの際のゴロ捕球は禁止。
 - ※打者、次打者以外の選手が、グラウンド内で素振りを行うことは禁止。
- (2) 控え捕手も常に捕手用ヘルメット、スロートガード付きマスク、プロテクター、レガース、ファウルカップを着用すること。
- (3) ベースコーチ、バットボーイともに、規定のヘルメットを着用すること。
- (4) イニングの攻守交代時にヘルメット、グラブの受け渡しがスムーズに行えるように手配すること。
- (5) 攻撃タイムおよび守備タイムは1分以内で行えるようにすること。
- (6) 4回、7回終了時に、会場補助役員がグラウンド整備を行う。
 - ※ 天候によっては行わない場合もある
 - ※ 整備終了後の直後に登板する投手に限り、ベンチ前でのキャッチボールは認める。
- (7) 天候および負傷（体調不良も含む）による試合の中断は10分を目安として、出場の可否をチームで判断し、試合を再開できるようにする。

8 応援

- (1) 攻撃側のチームが優先となる。
- (2) 試合開始の礼が終わり次第、先攻チームの応援優先となる。
- (3) イニング終わりは、審判の3アウトコールである。その直後からが攻撃側の優先応援となる。
- (4) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止とする。
- (5) 相手チームへの「やじ」や「走った」等の攻撃側のアンフェアな声かけを禁止とする。

沖縄県中学校体育連盟軟式野球専門部

用具・装具規定及び運用規定

平成 27 年「用具規定」制定

平成 30 年「用具規定」改訂

I 『基本方針』 ※制定の目的

- 1 公正・公平に競技する。
- 2 用具による差異をなくし、平等な条件で競技する。
- 3 安全面を考慮し、危険防止に努める。
- 4 各学校や個人の経費負担が過大にならないようにする。
- 5 学生野球（義務教育の一環）であることから、華美にならないようにする。
- 6 高校野球への円滑な移行を図る。

II 『本規定の適用について』

- 1 本規定は、沖縄県中学校体育連盟軟式野球専門部で、追加、削除及び変更等を決定し、速やかに全中学校に配布確認する。
- 2 適用に際して安全面に関する場合は、可能な限り早期に各種大会において適用することを原則とする。ただし、費用面での負担が大きい場合は年次的に適用する。
- 3 本規定は、その趣旨から、可能な限り県内の全大会において適用することが望ましい。本連盟以外の主催大会では、主催者と協議し適用有無について確認する。
- 4 本規定は、内規として競技部内の共通理解事項として位置づける。

III 『補足』

- 1 本規定に対する問い合わせは、県専門部役員を通して行う。
- 2 本規定に記載されていない事項については、公認野球規則ならびに全日本軟式野球連盟競技者必携に従う。
- 3 オーダー製品の購入、使用は可能な限り控える。（特別な事情を除く）
- 4 指導者は本規定の趣旨を理解し、公平性と教育的側面を考え指導にあたる。

1 ボール

(1) 使用するボールは、(公財) 全日本軟式野球連盟公認球B号とする。

2 バット

(1) 木製

- ① 一本の木材で作成した木製バットであること。
- ② 竹片、木片などの接合バットであること。
- ③ 木製については、公認制度を適用しない。※J.S.B.B マークは不必要。

(2) 金属・ハイコン (複合)

- ① 全日本軟式野球連盟公認 (J.S.B.B) のマークをつけたものであることとする。
- ② 全日本軟式野球連盟公認の「一般軟式用」の表示があるものとする。

(3) グリップ (バットの握り部分)

- ① グリップテープが切れているのは使用不可とする。
- ② グリップエンドやグリップトップが明らかに固定されていないものは使用不可とする。

(4) 変形・亀裂

① 金属

- A バットの亀裂やくぼみが確認されるものは使用不可とする。
- B バットの金属疲労や、ひび割れが確認されるものは使用不可とする。

② ハイコン (複合)

- A バットの金属部分以外の箇所 (ゴム製部分等) にはがれがあるものは使用不可とする。
- B 金属部分以外の箇所に、長さ 3cm 以上の亀裂が確認されるものは使用不可とする。
- C 金属部分との接合部分の亀裂も上記 B と同様の扱いとする。

※ (1) ~ (4) については、試合前に大会本部が確認を行うが、各チームの責任者は確実に点検を行い、大会に持参すること。

(5) 補足

- ① マスコットバットの使用は「可」とする。
- ② グラウンド内での、鉄棒およびバットリング等のトレーニングバットの使用は「不可」とする。
- ③ グリップガード (マツヤニスプレー) の使用は「不可」とする。

3 ユニフォーム

(1) 同一チームの監督、コーチ、選手は、同色・同型のユニフォームを着用とする。

(2) コーチでグラウンドに出ない者は、平服 (ポロシャツ、スラックス、帽子) を認める。女性の場合はこれに準ずる服装とする。

(3) 選手のユニフォームには、規定の大きさの背番号をつける。

(4) 帽子、アンダーシャツ、ベルト、ストッキング、シューズもユニフォームの一部である。

(5) ユニフォームの背中に個人名及び文字はつけない。

(6) ノースリーブの上着は認めない。

(7) ロングタイプ (裾を極端に絞った変形ズボン) やすそ幅の広いストレートタイプのパンツ、ベルトレスパンツは使用できない。

(8) 危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの一体型 (カラーソックス) は使用できない。また、しっかりとストッキングを見せるように着用する。(ストッキングはアーチ型とする)

(9) 学生野球であることから、華美なものや高価なものは控える。

※上着の全面と背面でのツートンカラーは華美と考える。切りかえしやラインの制限は特に設けない。

(10) 県代表として上位大会に出場する場合は、左袖に都道府県名を必ず表示し、監督#30・コーチ#29・28 主将#10の背番号を着用する。県内の大会では特に規定しない。

(全軟連規定では、左袖に県名以外の取り付け表示は不可である。)

- (11) アンダーシャツの首まわりの形状や袖の長さの規定はないが、左右の袖の長さが違うものは使用不可である。また、チームで同色でなければならない。

4 スパイク

- (1) スパイクはチーム全員が同色のものを着用する。カットの長さについての使用制限はない。
- (2) 単一色(エナメル不可)とする。
- (3) ワンポイントの商標は同色とみなす。
- (4) 金具はポイント式を使用してもよい。
- (5) 大会においては、監督・コーチも同色のスパイク(シューズ)の使用を徹底する。

5 グラブ

- (1) グラブ、ミット類は野球規則に準ずる。
- (2) グラブのカラーについては、華美にならないようにすること。
- (4) 投手用のグラブについては、縁取り、しめ紐、縫い糸を除くグラブ本体(捕球面、背面、網)は1色でなければならない。
- (5) グラブのしめ紐は長すぎないこと。(親指の長さ程度にする。)
- (6) グラブ、ミットの表面(捕球面・背面)に氏名、番号、その他の文字を表記してはならない。
- (7) 捕球を容易にするための目的で、特殊な突起物や材質の違うものをグラブの表面に加工した形状の商品の使用は認めない。

6 ヘルメット

- (1) 全日本軟式野球連盟公認 (J.S.B.B) マークと SG マークが入った両側にイヤーフラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
- (2) 打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは、上記のヘルメットを着用する。
- (3) 校名、校章、頭文字イニシャルを表示する。番号などの表示を認める。商標についての規定はない。
- (4) ボールボーイ、シートノック(サイドノックも含む)時の補助員はいずれもヘルメットを着用する。
- (5) 亀裂のあるものや内側の保護パットがついていないもの、また、保護パットが固定されていないものは使用できない。
- (6) チームとして、色やデザインは同一のものを着用する。

7 捕手の装具

- (1) マスクは、全日本軟式野球連盟公認 (J.S.B.B) マーク入りのものを使用し、必ずスロートガードを装着する。ただし、スロートガード一体型のマスクは別途装着しなくてもよい。
- (2) レガース及びプロテクターは、全日本軟式野球連盟公認 (J.S.B.B) マーク入りを装具する。
- (3) 捕手用ヘルメットは、全日本軟式野球連盟公認 (J.S.B.B) マークと SG マークのついたヘルメットを使用すること。
- (4) 膝痛軽減用パットの使用を認める。
- (5) レガース及びヘルメットに亀裂や破損があるものは使用できない。
- (6) 投球練習時の装具も7-(1)、(2)、(3)の規定に準ずる。(ブルペンまたは控え捕手も同様)
- (7) 急所(ファウル)カップを使用する。
※控え捕手も危険防止の観点から使用することが望ましい。
※ファウルカップは、J.S.B.B マークや SG マーク などの表記はない。

8 手袋、リストバンド

- (1) 野球用の手袋で打者、走者及び投手以外の守備に使用できる。リストバンドを兼ねたようなものは禁止とし、手首から先のものとする。
- (2) 色は白または黒色の単色のみ（高校野球ルール対応品）とする。
- (3) リストバンドは使用できない。
- (4) 補足
 - ① 走者時に手袋を外す場合は、自分のポケットにしまう。ベースコーチに渡すことはしない。
 - ② 出塁時に、走者用の手袋に着けかえることは禁止とする。

9 サポーター類

- (1) サポーター（手首や指を固定・保護する目的のもの）の使用は、医療目的に限り、試合前に大会本部に申し出て許可を得ることとする。
- (2) リストガード（リストガード付き手袋）は使用できない。ただし、連盟主催大会時は使用できる。
※中体連主催：使用不可（夏季野球選手権大会）
※連盟主催：使用可能（全日本春季予選大会・KBC 学園杯県新人大会・海邦銀行杯県春季大会）
- (3) レッグガード、エルボーガードは原則として使用しない。ただし、事情があり使用を希望する場合は、大会本部に申し出て許可を得ることとする。
- (4) テーピング（見える部分は肌色を巻く）はオーダー交換時に申告すること。

10 サングラス

- (1) サングラスは、学生野球であることから、極力使用を控えることとする。※特に華美なものや高価なものの使用は控える。
- (2) サングラスの使用にあたっては、生徒指導の観点や会場の立地条件などが関係することから各大会特別規定に準ずることとする。※記載のない場合は代表者会議等で共通確認をする。

11 防寒具など

- (1) ベンチ内のコート類（グラウンドコート、V ジャン、フリースコート、ジャージなど）はチームで統一したものを着用する。
- (2) 試合中、コート類の着用が認められるのは以下の通りである。
 - ① ベンチ内の選手
 - ② バットボーイの選手
 - ③ ランナーコーチの選手
 - ④ 試合中のアップ2組の選手
 - ⑤ 投手が走者になった場合※試合前後の整列時でのコート類の着用は、選手や監督・コーチともに認められない。
- (3) 球場内での、ネックウォーマーやレッグウォーマーの着用は認めない。
※w-up 中の使用も不可とする。

12 その他

- (1) J.S.B.B マークの別途作成及び道具、装具への貼り付けを禁止する。

第70回 沖縄県中学校野球選手権大会

マナーチェックの実施について

沖縄県中学校体育連盟軟式野球専門部

1 目的

沖縄県中学校野球選手権大会 大会特別規則10(9)に基づき、学校教育の一環として行われる中体連主催の大会には、中学生らしい服装・マナーで参加させることを目的として、本大会においても参加校登録選手を対象に「マナーチェック」を実施する。

2 実施方法

(1) 開会式当日選手集合場所において「マナーチェック」を実施する。

(2) 点検順序

- ①大会役員の指示により整列し、脱帽する。
- ②以下の項目に沿ってチェックを実施する。複数人(二人)で一人ずつ行う。

項目		チェック基準
1	頭 髪	相手校に不快感や威圧感を与えるような ○ 染髪や脱色 ○ そり込みや刈り込み ○ 眉ぞり などをしていないか。
2	爪	競技に危険を及ぼすような ○ 故意に伸ばされた爪 ○ 投手指先へのテーピングなどをしていないか。
3	装飾品	競技に支障をきたす(大会取り決め事項に禁止されている)ような ○ 装飾品(ピアス、ネックレス、ミサンガ、リストバンド、リストガード等) を身につけていないか。 ※ チタンブレスレット、ファイティン、ネックレス等の着用は不可。
4	ユニフォーム	全選手が ○ 同色、同型、同意匠のユニフォーム・帽子・アンダーシャツ・ソックス・ オーバーストッキングを着用しているか。 ※ オーバーストッキングは長さ(ローカット、ミドルカット等)を統一したものを着用すること。カラーソックスは不可。

※1 上記項目を「適正」(✓)、「要確認」(△)、「要指導」(×)で点検し、結果を票に記入する。
点検後、「要確認」・「要指導」の選手がいた場合は下記の流れで指導を行う。

- ① 点検者は、チェック用紙を責任者へ提出する。※そのときに、気になる選手についても報告する。
- ② 点検者責任者は要確認・要指導の生徒について、大会本部(県専門部長・競技部長)へ報告する。
- ③ 大会本部は地区専門部長へ伝え、地区専門部長が監督へ報告する。
- ④ 監督及び地区専門部長は要確認・要指導の生徒の状況を確認する。
- ⑤ 地区専門部長は確認後、大会本部へ状況を報告する。監督・該当選手は大会本部にて待機する。
- ⑥ 大会本部にて確認後、規律委員会を立ち上げ、今後の対応・判断を行う。

※2 大会2日目以降についても、マナーに関する決まりを守ることを。